



文：高瀬徹朗 Takase Tetsuro

本誌放送アナリスト・ワンセグウォッチャー

野球好きの友人に「BS1はワンセグで見られないのか」と聞かれた。日本シリーズを見たいが、子供に大型テレビのチャンネルをとられて選択権がない。そこで自分はワンセグで見ようと思ったが、地上波放送がないのでいかんともしがたい、というわけだ。11年からの携帯電話向け有料放送を開始するマルチメディア放送も「長時間のスポーツ生中継はあまり考えていない」という話で、近い将来解決されるわけでもない。やはり、放送は地上波が重要なのだとあらためて感じた。それではチェック、スタート。

## 貴重な地上波中継となった 「中日 vs ロッテ」第4戦 日本シリーズの 不人気カード？

### ワンセグは「すぐわかる」魅力

さて、地味だの不人気だのといわれて地上波放送を削られてしまった今年のプロ野球日本シリーズ「中日ドラゴンズ対千葉ロッテマリーンズ」。今回は貴重な地上波中継となった第4戦（11月3日、テレビ東京）をチェックした。

まずはワンセグ。起動すると、目に飛び込んでくるのはグラウンドを模したアニメチックなデザイン。ランナーが出ると塁上にランナーが表示され、現在の状況が一目でわかる。

下にスクロールすると、現在打席に立っている打者の打率・本塁打数、同日の成績（打数・安打・本塁打）と、マウンド上投手の当日成績（奪三振、四死球、被安打数）が表示されている。次打者に移った場合もちろん、選手交代があった場合も素早く反映される。

このようにプッシュ型コンテンツがトップ画面のほとんどを占めているため、メニューは非常に控えめ。グラウンドアニメ付近にある「スコア詳細」、画面最下部の「打順」「シリーズ経過」、非連動ページへ遷移する「ニュース・天気へ」と絞ってある。

「スコア詳細」は遷移というより表示切り替え機能で、上部のグラウンドアニメをスコアボードに切り替えるメニュー。「閉じる」で最初の画面に戻す。ユーザの好みによって選んでくれ、ということだろう。

「打順」は両軍出場メンバーを一挙掲載。選手名それぞれがメニューになっており、選択すると当日の成績が出る。また、打席の打者、守備中チームの次回先頭打者にはそれぞれわかりやすくマークが付いている。

「シリーズ経過」は唯一の一次リンク。クラ

イマックスシリーズのトーナメント表と日本シリーズ前戦までの結果が掲載されている。さほど特筆すべき点はないメニューだ。

全体として「外出先などで使用する」ことを強く意識したデータ放送と評価することができる。パッと見てわかりやすいデザイン、トップ画面のコンテンツ構成とも「本線映像だけではわかりにくい、現在の最新状況」をうまくフォローしている。

ワンセグ利用にありがちな「移動の合間に状況だけ確認する」ニーズにも一致する。情報を詰め込みすぎることなくシンプルに、かつ使いやすく洗練されたサービスに仕上がっている。

### 12セグは内容量少なめ

続いては固定データ放送。最初に気が付くのは、L字表示範囲が小さいこと。つまり、本線映像の縮小を最低限にとどめているということだ。

主な要因は、ラインナップの表示を一方のチームに絞っていること。基本は攻撃中チームの出場中メンバーが表示され、メニュー「守備」でチームを切り替えることができる仕組みだ。

選手名にカーソルを合わせると当日成績などが表示されるのはワンセグと同じ。画面下はスコアボードが表示されている。つまりメニューは選手名とチーム切り替えだけで、構成としてはある意味、ワンセグよりもシンプルだ。

こちらは少々、不満の残る内容といわざるを得ない。各イニング（特に得点回）の経過を示すテキスト、あるいは両軍ベンチ入りメンバーおよび選手交代の経過くらいは掲載してくれるとありがたい。この情報量では、上記のことを知りたい場合、ネットを頼ることになり、そうな



ればデータ放送自体の価値が激減してしまう。

結論としては「（ことプロ野球中継に関しては）さほど12セグデータ放送は重視していないのかな」ということ。テレ東の場合、他のコンテンツで充実した12セグデータ放送も展開されているだけに、この点はやや残念。とはいえ、このご時勢（？）に連動データ放送を付けていること自体はやはり、評価すべきなのかもしれない。

